

救急 IVR におけるクラウド型遠隔指導システムの有用性と実行可能性 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2026 年 9 月 28 日 ～ 2028 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 救急 IVR におけるクラウド型遠隔指導システムの有用性と実行可能性に関する検討

〔研究目的〕 画像下治療 (IVR) は救急医療において非常に重要な役割を果たしていますが、専門医の不足や地域による偏在が問題となっています。当院では、遠隔地にいる熟練医がリアルタイムで手術映像を見ながら現場の医師に指示や助言を行うことができる「クラウド型遠隔指導システム」を導入しました。本研究の目的は、このシステムを使用して行われた治療の記録を振り返り、通信が安定していたか、適切な指導が行えたか、手術が安全に完了したかなどを分析することで、このシステムの医学的な有用性を評価することです。

〔研究意義〕 本研究により、この遠隔指導システムが安全かつ有効であることが確認されれば、専門医が不在の夜間や休日、あるいは専門医がいない地域病院においても、高度な医療支援を受けることが可能になります。これは、将来的に多くの救急患者さんの救命率向上や合併症の低減につながる社会的な意義の大きい研究です。

〔対象・研究方法〕 2024 年 9 月から 2025 年 3 月の間に、当院において遠隔指導システム (DxDoor) を用いた画像下治療 (IVR) を受けられた患者さんの過去の診療記録 (カルテ) およびシステムに保存された手術記録データを調査します。通信が安定していたか、適切な指導が行えたか、治療が安全に完了したかなどを分析し、本システムの有用性を評価します。なお、本研究は過去の記録のみを使用するため、患者さんに新たな検査や負担をお願いすることはありません。また、使用する手術映像は個人情報 that 特定できないよう加工 (マスキング) された状態のものを使用します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部 放射線科学講座

〔個人情報の取り扱い〕 本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、帝京大学医学部附属病院放射線科読影室にある鍵のかかる保管庫で保管します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、問い合わせ先までお申し出ください。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 北川 幹太 職名 助手
研究分担者:氏名 近藤 浩史 職名 教授
所属: 帝京大学医学部 放射線科学講座
TEL: 03-3964-1211, FAX: 03-5375-5318